

# 泥の中の熱戦 四半世紀の歴史に幕

愛南町と高知県宿毛市の県境に位置する篠南地域を四半世紀にわたり盛り上げてきた「県境篠山騒動どろんこサッカー大会」が、25回目を迎えた今回で終了しました。愛南町正木と宿毛市山北の両地区住民でつくる「篠山クラブ」（松本仁志会長）を中心に、地元有志が過疎化の進む篠南地域を盛り上げようと歴史を重ねてきましたが、運営スタッフの高齢化や人手不足などを理由に、苦渋の決断となりました。幕引きを惜しむかのような大雨の中、一般、女子の両部に計49チームが参加し、最後の大会にふさわしい熱戦を繰り広げました。

最後の栄冠を勝ち取ったのは、一般の部が「ファンタ痔スタBLACK」、女子の部は「2代目どろんこボンバーズ」でした。



## 裏方さんも大忙し

大会前日には、篠山クラブの会員や地元住民の皆さんが、20名余りでコートづくりを行いました。コートから水が漏れないように畦を作り、草刈りやトラクターでの耕うんなど、一日がかりの大仕事です。



正木地区の製材所から提供されたヒノキ材に筆を入れ、表彰状に仕上げるのは清家寛大さん(赤水)。温かみのあるこの表彰状を目当てに優勝をめざすチームもあったそうです。



ぼくたちが優勝した25年前の第1回目の大会は、出場チームが16チームでした。今では50に近いチームが参加する賑やかな大会となっただけに、今回で終了するのが非常に残念ですが、このような素晴らしい大会を25年も運営してこられた篠山クラブの皆さんに敬意を表します。

ぼくたちのチームも年齢には勝てず1回戦で敗退しましたが、完全燃焼できました。



第1回大会優勝  
「山出青年クラブ」  
代表 大森貴史さん

どろんこサッカー大会は今回の第25回目をもちまして、残念ではありますが終了します。

今までたくさんの方々を支えられて25年も続けることができました。会場となる田んぼを快く貸してくださった地権者の皆様、朝早く選手のお弁当を作ってくくださった正木婦人会の皆様、大会の趣旨に賛同していただき、多大なる寄附をしていただきましたスポンサーの皆様、そして、泥まみれになりながら、すばらしいプレーを見せてくれた選手の皆様、本当にありがとうございました。



篠山クラブ  
会長 松本仁志さん



泥田の中に置かれた1本の旗をいち早く手にするのは誰か。「どろんこフラッグス」でも、子どもから大人まで、真剣勝負。